

## 市場化テスト後のアジ研図書館運営事情

### 1. 自ら落札者となった市場化テスト

#### (1) 組織改編

- ・市場化テスト業務を専ら行う課の設置  
(従来の閲覧サービス業務主管してきた課を専ら市場化対象業務を行う課に再編)
- ・市場化テスト業務専任職員の配置  
専従職員の配置－課長、課長代理 の2名

#### (2) 業務委託

- ・業務委託  
市場化テスト業務の内、洋書・和書目録、装備及び閲覧サービス業務を委託  
目録業務(単価契約、NACSIS ヒット、流用、オリジナル)(1名+α)  
装備  
閲覧サービス(4名体制)－市場化前から委託/派遣
- ・派遣社員  
製本

#### (3) バックヤード業務

今回の市場化に際して、市場化テスト専任職員でない図書館職員が市場化対象業務である目録採録、雑誌記事索引採録を行うことをバックヤード業務と読んでいる。

これに充当した勤務時間を申告することで、人件費のうち、市場化テスト関連業務に充当する人件費とそれ以外の人件費を区分する。

1時間当たりの人件費の根拠：

### 2. 経理処理の実際

人件費の仕訳＝職員については、市場化対象業務従事時間の申告

アルバイト勤務時間の仕訳(市場化/非市場化)

物件費：市場化対象業務に付随する物件費(複写機トナー、セキュリティタグ、装備用品など)

経費的には問題はないと思われるが、それを仕分ける煩雑さ。

事務経費は追加的負担が発生するという考え方がないことに問題。

市場化準備の為の一年間の作業、市場化後の事務作業(本来業務と市場化業務の仕訳作業など)を経費として計上すると莫大になる。

市場化テストがなければ発生しない経費を、計上することができれば…。

### 3. モニタリング・ミーティング

- ・目録の質のモニタリングは可能か？

NACSIS-CAT、目録規則に従った目録を評価できる図書館職員を確保することが必要。さもなければ、将来、モニタリング自体が成立しない。

- ・ミーティング

月初めに2時間程度のミーティング

特に閲覧サービス業務については、閲覧者対応という経験を重ねるなかで業務手法、や能力が獲得される業務では、報告にとどまることが多い。(具体的には、ILLの業務、クレーム対応など)

#### 4. 自ら落札者となった理由

##### (1) アジ研図書館の歴史

1960年創立。

○当初から、研究者と途上国現地に現地調査に出かけて、資料を入手。

活発な総合目録活動(60年代、70年代)、書誌活動

(旧植民地関係機関総合目録、経済学文献季報)

○図書館員の研究会への参加

○東南アジア、南アジア、中東、アフリカ、ラ米の専門図書館職員の養成

- ・途上国現地派遣(2年間×2回程度)

現地語習得、現地出版事情、書店事情、

政府刊行物の入手

- ・現在の図書館職員の現地語

韓国語、中国語、タイ語、マレー語、インドネシア語、アラビア語、スペ

イン語、ポルトガル語、フランス語

##### (2) アジ研図書館の運営

○海外書店、政府機関、新聞社等からの直接購入

○資料交換機関の維持

#### 5. それでは、次も自ら落札者となる？

##### (1) 官民競争入札／民間競争入札

内閣府は、引き続き官民競争入札とすることを望んでいる。

アジ研図書館が疲弊し入札に負けるまで、官民競争入札を続けるのか？

##### (2) 図書館職員の能力開発と課題

地域研究専門図書館員 アメリカの図書館員が大学院を出た専門職であるように、アジ研の図書館員は、多くは地域研究専門図書館員として育つ。

サブジェクトを持った専門図書館員と育つケースもかつてはあった

(経済学文献季報への参加など)

図書館員が有すべき能力としての目録採録能力、閲覧利用者サービス能力はどうするか。